

道南太平洋海域スケトウダラニュース

平成 18 年度 第 2 号 2006 年 9 月 29 日

北海道立栽培水産試験場 調査研究部 TEL : 0143-22-2327 FAX : 0143-22-7605

平成 18 年度道南太平洋海域におけるスケトウダラ漁況の見通し

道南太平洋海域のスケトウダラ漁況の見通しについてお知らせいたします。

(内容は、各協議会総会、会議等で報告したものです)

資源は減少傾向にあり、来遊資源量(重量)は前年より減少すると予想されます。漁獲量にすると5~6万トン(全漁業込み)の資源です。

漁獲物は尾叉長45cm以上の中大型魚の割合が高くなるでしょう。

計量魚探調査の結果からみて、漁期前半の10、11月の総漁獲量は前年よりやや増加して2~3万トン程度と予想されます。

漁場は例年よりやや浅く水深200~300mとなる可能性があります。その後は漁期が進むにつれて徐々に浅くなるでしょう。

平成18年度以降の情報:平成12年生まれ(2000年級)より後には卓越年級がでていません。現在ある資源をとりすぎないようにして、持続的に利用していく必要があります。

- 1.平成18年度道南海域に4歳魚として新たに加わる平成14年生まれの魚(2002年級群)は、前年度(平成17年度)の4歳(平成13年生まれ:2001年級群)と同程度で多くないと予測されることから、資源量は前年より減少すると予想されます(図1)。資源は減少傾向にあり、漁獲量にすると5~6万トン(全漁業込み。平成17年度は7.4万トン)の資源です。
- 2.6~7歳魚の割合が高いと予想されるので、漁獲物は尾叉長45cm以上の中大型魚の割合が増加するでしょう。
- 3.9月に実施された計量魚探調査の結果から、漁期はじめの10~11月の漁獲量は前年よりやや増加して、2~3万トン程度と予想されます。(図2。スケトウダラニュース第1号を参照してください)。
- 4.魚群の分布水深は200~300mと例年よりやや浅いことから、漁期はじめの漁場水深は例年より浅くなる可能性があります。
- 5.釧路水試が実施している道東海域1歳魚を対象とした計量魚探調査の結果では、平成12年生まれ(2000年級群)以降豊度の高い年級群(卓越年級群)が出現していません。今後も資源の減少傾向が続くと予測されます。現在ある資源をとりすぎないようにして、親魚量を一定以上に維持していく必要があります。
- 6.今年度は、10月下旬、11月下旬、1月中旬に計量魚探調査を予定しています。11月上旬、12月上旬、2月上旬にスケトウダラニュースで、それぞれの調査結果をまとめて直近の分布状況や来遊量お知らせしていく予定です。

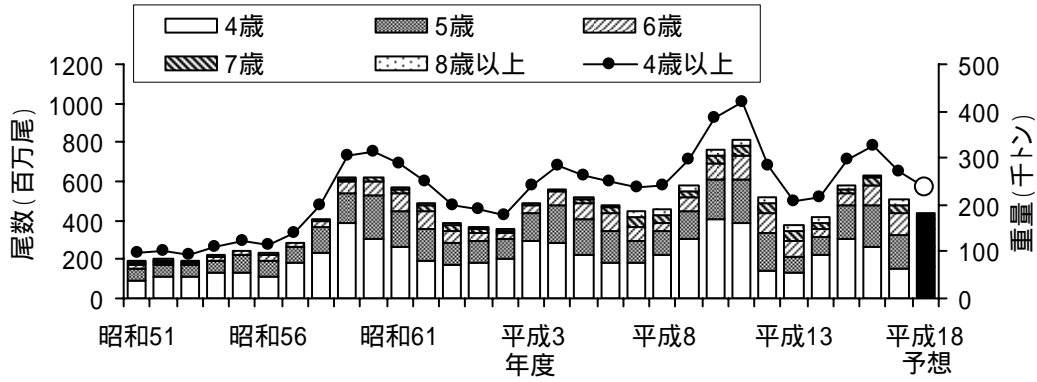


図1．道南太平洋海域のスケトウダラ資源尾数（棒グラフ）および重量（折れ線グラフ）の経年変化

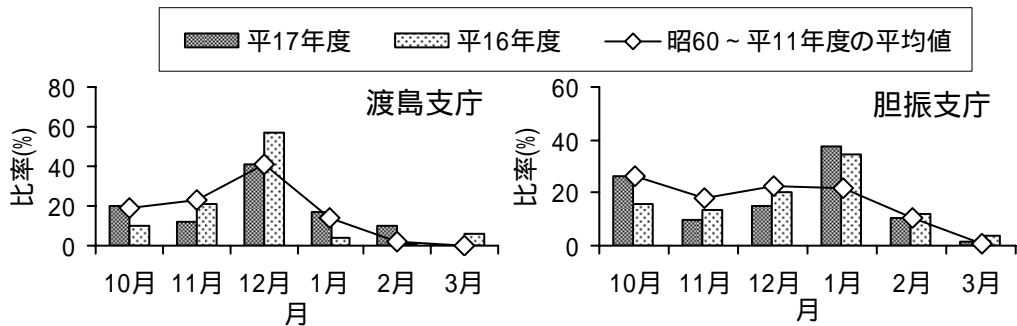
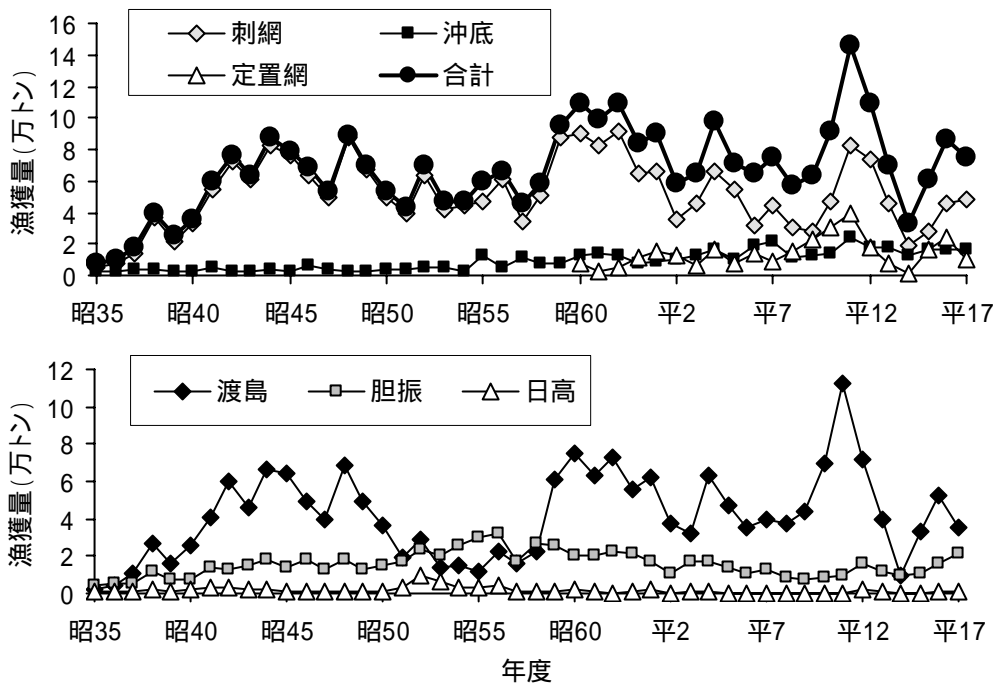


図2．渡島および胆振支庁の刺し網漁獲量の月別比率
棒グラフ：平成 16、17 年度、折れ線グラフ（昭和 60 年～平成 11 年度の平均）



参考 道南太平洋海域の漁業別（上）支庁別（下、刺し網と定置網）スケトウダラ漁獲量の推移